

ウッドマイルズ研究ノート（その16）

流通把握度の見直しについて

- ウッドマイルズ関連指標算出マニュアル Ver.2006 改訂案 -

ウッドマイルズ研究会 2008/2/29

1 はじめに

ウッドマイルズ関連指標算出マニュアルにて定義されている4つの指標（ウッドマイレージ・ウッドマイレージL・ウッドマイレージCO₂・流通把握度）のうち、「流通把握度」の改訂を求める声が、設計者数名から寄せられた。

本稿は、この改訂意見の内容、及び数件のケーススタディー結果の検証をもとに、「流通把握度」の定義の改訂を提案するものである。

2 流通把握度改訂の経緯

現行のマニュアルにおける流通把握度の定義は、「木材の産地から使用地点までの輸送経路について、輸送経路の情報が暫定値や推定値ではなく確実である部分のウッドマイレージ値が、全体のウッドマイレージ値に占める割合で表される、木材流通経路の把握の度合いを表す指数（単位：％）」となっている。つまり、流通把握度算出のポイントとなる流通経路の「不明部分」の割合の判断について、現行のマニュアルではあくまでも該当部分（経路不明部分）の「ウッドマイレージ」の比率で算出している。

これに対し、不明部分の材積は、造作材や下地材の極一部で、全体に占める材積の割合は数％であるのに、その輸送距離が輸入材等の極端に長いものの場合、不明部分のウッドマイレージ値が極端に大きくなり、結果として全体の流通把握度も極端に低い値となる。一方でこのような場合、確実部分の木材が、地域材等より距離が小さいものになればなるほど、全体の流通把握度はさらに低くなる。

流通経路が不明となるものは、輸入材や遠方国産材など、必然的に輸送距離の長いものが多くなる。作り手の努力により、ほとんどの木材の輸送過程を確実に把握しているが、なかなか把握が難しい輸入材を原料とした合板や既製品が僅かに残ってしまう、という事例がとても多く、このような場合、上記の通り流通把握度が極端に低くなり、一般消費者に対して誤解を与える可能性や、努力があまりにも報われないため、作り手の木材のトレーサビリティ確保に対する意識を下げる等の指摘があった。

3 流通把握度の定義改訂案

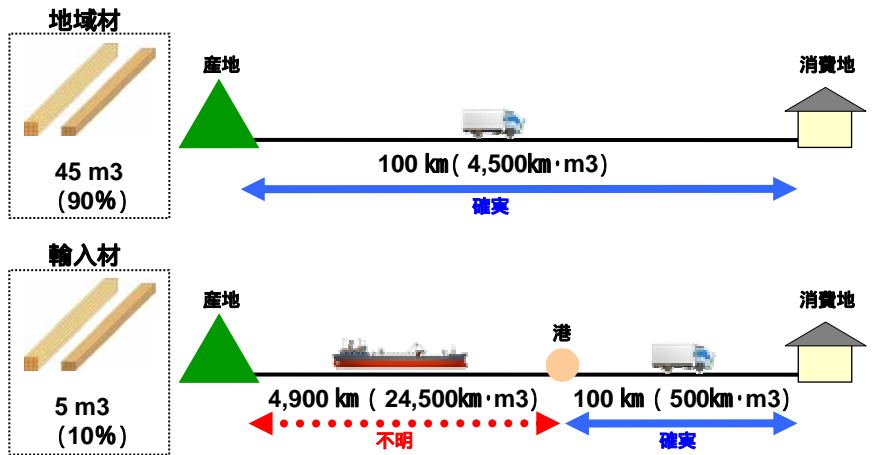
これらを受け、ウッドマイルズ研究会では、木材量だけではなく輸送距離をも含む指標であることを生かしつつ、指摘頂いた点を解消すべく、流通把握度の定義を以下のように改訂することを提案する。

< 流通把握度の定義（改訂案） >

「流通把握度」(%) :

使用した木材の総量（総材積）に対して、経路毎に確実に把握しているウッドマイルズの比率を該当する材積に掛け合わせて算出される、流通把握材積が占める割合で表される、木材流通経路の把握の度合いを表す指数（単位：%）

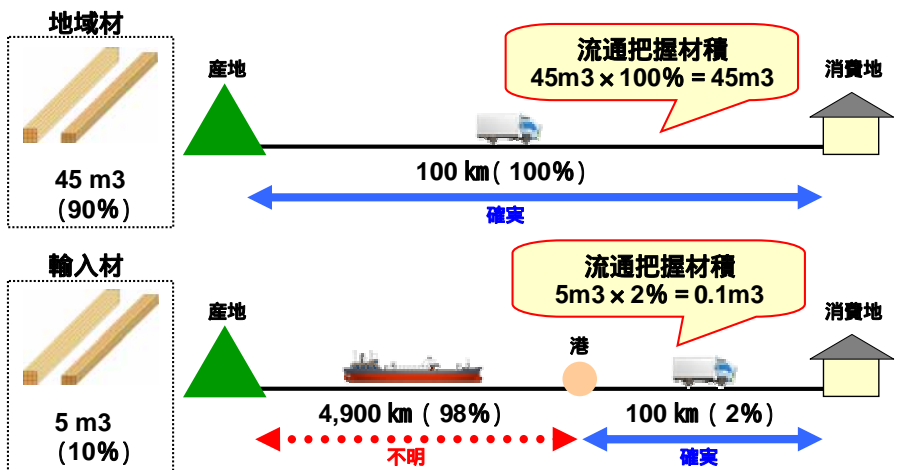
「流通把握度」改訂（前）の算出方法



流通把握度

$$(4,500 + 500) / (4,500 + 24,500 + 500) \times 100 = 16.9\%$$

「流通把握度」改訂（後）の算出方法



(改訂) 流通把握度

$$(45 + 0.1) / (45 + 5) \times 100 = 90.2\%$$

4 ケーススタディー

流通把握度の改訂案について、今までに算出された3種の事例を用いて検証する。以下は、「産地から消費地まで全て把握している木材の材積」と「産地から消費地まで一部でも不明な流通箇所がある木材の材積」との材積比率のイメージと、流通把握度の算出結果の比率のマッチング具合を把握するため、改訂前と改訂後の各々の数値を表にしたものである。

<ケース01: 大部分に流通経路を100%把握している地域材を使用した宿泊施設>

(改訂前)

経路把握状況	木材の種類・産地・不明箇所	材積	流通把握度
全て把握	地域材の構造・準構造・下地・造作・仕上材	91.4599m ³ (87.2%)	22%
一部不明あり	輸入造作材・輸入合板の輸入港以前不明 国産造作材の単板工場以前不明	13.4434m ³ (12.8%)	

(改訂後)

経路把握状況	木材の種類・産地・不明箇所	材積	流通把握度
全て把握	地域材の構造・準構造・下地・造作・仕上材	91.4599m ³ (87.2%)	90%
一部不明あり	輸入造作材・輸入合板の輸入港以前不明 国産造作材の単板工場以前不明	13.4434m ³ (12.8%)	

<ケース02: 構造用合板を除く大部分に100%把握している国産・地域材を使用した一般住宅>

(改訂前)

経路把握状況	木材の種類・産地・不明箇所	材積	流通把握度
全て把握	地域材の構造・準構造・下地・造作・仕上材	59.1453m ³ (83.4%)	46%
一部不明あり	輸入合板・国産合板の合板工場以前不明 国産材の下地・造作・仕上材の森林組合・木材市場・製材所以前不明	11.7498m ³ (16.6%)	

(改訂後)

経路把握状況	木材の種類・産地・不明箇所	材積	流通把握度
全て把握	地域材の構造・準構造・下地・造作・仕上材	59.1453m ³ (83.4%)	93%
一部不明あり	輸入合板・国産合板の合板工場以前不明 国産材の下地・造作・仕上材の森林組合・木材市場・製材所以前不明	11.7498m ³ (16.6%)	

< ケース 03: 大部分に流通経路を 100% 把握している地域材を使用したモデルハウス >

(改訂前)

経路把握状況	木材の種類・産地・不明箇所	材積	流通把握度
全て把握	地域材の構造・準構造・下地・造作・仕上材	41.0042m ³ (87.7%)	95%
一部不明あり	地域材の下地・造作・仕上材の原木市場・製材所以前	5.7702m ³ (12.3%)	

(改訂後)

経路把握状況	木材の種類・産地・不明箇所	材積	流通把握度
全て把握	地域材の構造・準構造・下地・造作・仕上材	41.0042m ³ (87.7%)	96%
一部不明あり	地域材の下地・造作・仕上材の原木市場・製材所以前	5.7702m ³ (12.3%)	

5 おわりに

輸入材を多用している合板や造作既製品などの木材のトレーサビリティの確保は、合法木材や消費者に対する信頼性の確保において、大きな課題であり関係者の努力が求められるが、国産製材においてもトレーサビリティの確保がままならない現状からは、まずは国産製材のトレーサビリティ確保の努力が必要である。この努力が報われない現状の「流通把握度」の定義は、ウッドマイルズの普及にも悪影響を与えると判断し、今回の改定案を作成した。各地で木材のトレーサビリティ確保に努める関係者にとって、より良い指標となれば幸いである。